

研究成果展開事業
大学発新産業創出プログラム(START)
大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援

中間評価結果

令和7年1月24日
国立研究開発法人科学技術振興機構

<目次>

1. 制度概要	2
2. 中間評価の目的	2
3. 中間評価の方法	2
4. 総合評価結果のランクと基準	3
5. 中間評価結果	3

<対象プラットフォーム名>

- ・北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク(HSFC)
- ・みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム(MASP)
- ・Peace & Science Innovation Ecosystem(PSI)
- ・Platform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup-ecosystem(PARKS)

1. 制度概要

大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援では、令和2年7月に内閣府が選定した「スタートアップ・エコシステム拠点都市」において中核となる大学・機関から構成されるプラットフォームに対し、アントレプレナーシップを有する人材の育成とスタートアップ創出へ一体的に取り組むための活動に必要な支援を行う。

大学から生まれる優れた技術シーズの実用化やアントレプレナーシップを有する人材の育成を強力に支援し、コロナ後の社会変革や社会課題解決に繋がる社会的インパクトの大きいスタートアップが持続的に創出される体制を構築することを目指す。

2. 中間評価の目的

本評価では活動の実施状況や成果・課題を明らかにし、支援期間終了までの取組の改善に寄与することを目的とする。

3. 中間評価の概要

(1) 評価者

大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援委員会

(2) 評価方法

報告書の査読及び面接(プレゼンテーションによるヒアリング・質疑応答)

(3) 評価の観点

プログラム実施項目である以下①～⑤について、それぞれ「ビジョン・目標への進捗」「取組内容」「課題分析と今後の対応方針」の観点で評価した。

- ① 全体(総合)
- ② 起業活動支援プログラムの運営
- ③ アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開発・運営等
- ④ 起業環境の整備
- ⑤ 拠点都市のエコシステムの形成・発展

4. 総合評価のランクと基準

総合評価のランクと基準は、以下の通り。

総合評価 ランク	基準
S	特に優れた進捗があり、今後のスタートアップ・エコシステムの形成・発展が特に期待できる。
A	十分な進捗があり、今後のスタートアップ・エコシステムの形成・発展が期待できる。
B	一部不足があるが、概ね一定の進捗があり、今後の改善努力によりスタートアップ・エコシステムの形成・発展が期待できる。
C	進捗が不十分であり、今後のスタートアップ・エコシステムの形成・発展には相当の改善努力が必要である。

5. 中間評価結果

5-1	北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク(HSFC)4 頁
5-2	みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム(MASP)5 頁
5-3	Peace & Science Innovation Ecosystem(PSI)6 頁
5-4	Platform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup-ecosystem(PARKS)7 頁

5-1 北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク(HSFC)

プラットフォーム名	北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク(HSFC)
主幹機関	北海道大学 【総括責任者】 総長 寶金 清博 【プログラム代表者】 副本部長・特任教授 小野 裕之
共同機関	小樽商科大学、室蘭工業大学、北見工業大学、公立はこだて未来大学、札幌医科大学、北海道情報大学、北海道科学大学、北海学園大学、苫小牧工業高等専門学校、函館工業高等専門学校、旭川工業高等専門学校、北海道科学技術総合振興センター
評価対象の活動期間	2022年 6月 15日～2024年 6月 30日

1. 活動概要 (HSFC の中間報告書より引用)

本予算事業においては、主にアントレプレナーシップ教育プログラムを実施しており、小中高生を含めた学生から一般人まで幅広く対象として、3段階の教育段階を構成している。また、地方の学校や自治体との連携を盛んに実施しており、札幌市との連携講義においては、学生起業家や経営者を講師に迎え、入学者向けのエントリープログラムを実施している。また、HSFC ウェブサイト上でアントレ教育科目の一覧を示すなど、プログラムの共用化を進めており、これらの取組によって、現在までに約 7,000 名がプログラムを受講し、アントレプレナーシップ教育を全道へ展開し、スタートアップ・エコシステム形成の機運を高めている。

2. 評価結果

総合評価:A

3. 総合評価結果

プラットフォームの参画機関数を着実に増やし、プラットフォーム全体でアントレプレナーシップ教育プログラムの共用化を進めている。プログラムの受講者数も増加しており、着実にアントレプレナーシップの醸成の土台を構築している点は高く評価できる。

一方で、起業支援人材をいかに確保、育成して各機関へ配置するのが重要であり、成功事例なども参考にあるべき姿を改めて検討、定義し、人材の確保・育成することを求めたい。また、アントレプレナーシップという点では、起業家、社会課題を身近に感じられることも大切であり、まず関心を持ってもらう機会の提供等、入口の工夫も必要と考える。

5-2 みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム(MASP)

プラットフォーム名	みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム(MASP)
主幹機関	東北大学 【総括責任者】 理事 遠山 毅 【プログラム代表者】 副学長、未来科学技術共同研究センター長 湯上 浩雄
共同機関	弘前大学、岩手大学、秋田大学、山形大学、福島大学、新潟大学、長岡技術科学大学、宮城大学、会津大学、東北大学ナレッジキャスト
評価対象の活動期間	2022年 6月 15日～2024年 6月 30日

1. 活動概要 (MASP の中間報告書より引用)

東北大学のシームレスなベンチャー支援の経験・ノウハウや仕組みをプラットフォームに展開している。①起業活動支援では、みちのく GAP ファンドを運営し、各大学の研究・技術領域の研究成果や技術シーズ等の事業化のための伴走型支援を実施した。②アントレプレナーシップ人材育成では、EDGE-NEXT 参加校の経験・ノウハウや海外大学とのネットワークを活用して起業家や指導者層を育成した。③起業環境整備では、各大学に起業相談窓口を設置し、大学間起業支援室ネットワーク(MuNES)を運営し、起業規程の整備も進めた。④エコシステム形成では、プラットフォーム活動の会議体の運営や、地域の産官学金のネットワークと連携した仕組みを構築した。

2. 評価結果

総合評価:A

3. 総合評価結果

アントレプレナーシップ教育プログラムの受講者数は目標を達成しており、オンラインコンテンツも整備されている。研究者、学生への浸透も進んでいることからアントレプレナーシップの醸成の土台構築がなされており、今後に期待が持てる。

一方で、起業支援人材については、成功事例なども参考にあるべき姿を改めて検討、定義し、人材の確保・育成を求めたい。また、アントレプレナーシップという点では、起業家、社会課題を身近に感じられることも大切であり、まず関心を持ってもらう機会の提供等、入口の工夫も必要と考える。

5-3 Peace & Science Innovation Ecosystem (PSI)

プラットフォーム名	Peace & Science Innovation Ecosystem (PSI)
主幹機関	広島大学 【総括責任者】 学長 越智 光夫 【プログラム代表者】 副学長(産学連携担当)大学院医系科学研究科 教授 田原 栄俊
共同機関	岡山大学、島根大学、愛媛大学、徳島大学、高知大学、香川大学、鳥取大学、広島市立大学、叡啓大学、県立広島大学、広島修道大学、安田女子大学、岡山理科大学、川崎医科大学、周南公立大学
評価対象の活動期間	2022年 6月 15日～2024年 6月 30日

1. 活動概要 (PSI の中間報告書より引用)

中四国におけるスタートアップ創出の機運を高めるべく、主幹機関が各大学を往訪し、当初7大学で始まった PSI を 16 大学まで拡大した。

アントレプレナーシップ教育や FD (Faculty Development) を充実するため、アントレプレナーシップ委員会を立ち上げ、各大学間で好循環を作り出す仕組みを構築した。

本エコシステムを持続可能なものとするため、ひろしま好きじゃけんコンソーシアムの運営等を行った。会員数は令和 4 年度末の時点で 21 機関、社団法人化前の時点で 65 機関、令和 6 年 6 月 30 日時点で 93 機関と増加している。本コンソーシアムは、エコシステムにおける資金源や連携ネットワークの役割を果たしている。

2. 評価結果

総合評価:A

3. 総合評価結果

連携する地域も広がり、プラットフォームの参画機関も順調に増加し、中国・四国地域のプラットフォームとしての基礎を築いたことを高く評価できる。また参画大学がアントレプレナーシップ教育のカリキュラムを相互補完・共用することで体系的な教育プログラムを構築したことは、アントレプレナーシップ教育の土台となったといえる。

一方で、全体としての取組みが明確でない印象があるため、今後、プラットフォームが一体となったエコシステムの形成を意識した運営を進めて欲しい。加えて、起業支援人材については、成功事例なども参考にあるべき姿を改めて検討、定義し、人材の確保・育成を求めたい。また、アントレプレナーシップという点では、起業家、社会課題を身近に感じられることも大切であり、まず関心を持ってもらう機会の提供等、入口の工夫も必要と考える。

5-4 Platform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup-ecosystem (PARKS)

プラットフォーム名	Platform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup-ecosystem (PARKS)
主幹機関	九州大学 【総括責任者】 総長／学術研究・産学官連携本部 本部長 石橋 達朗 【プログラム代表者】 副理事／学術研究・産学官連携本部 本部長補佐・教授 大西 晋嗣 九州工業大学 【総括責任者】 学長 三谷 康範 【プログラム代表者】 理事／副学長 中藤 良久
共同機関	株式会社 FFG ベンチャービジネスパートナーズ、長崎大学、北九州市立大学、佐賀大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学、九州産業大学、久留米大学、第一薬科大学、福岡大学、福岡工業大学、山口大学、立命館アジア太平洋大学、沖縄科学技術大学院大学学園、九大 OIP 株式会社
評価対象の活動期間	2022年 7月 1日～2024年 6月 30日

1. 活動概要 (PARKS の中間報告書より引用)

PARKS は、オール九州・沖縄圏が一体となり、アジアとつながるスタートアップ・エコシステムの創出を目指す。年 1 回以上のシンポジウム開催、国内および台湾やシンガポールでのイベント出展、九州・大学発ベンチャー振興会議に PARKS の全メンバを所属させる等で、九州・沖縄圏にとどまらずアジアの産官学金のエコシステムとの接続を可能とし、以下の 2 つのビジョン達成を目指している。

PARKS としては、以下の課題を抱えており、それらを克服するために以下の 2 つのビジョンを掲げている。

- 各大学で定常的に十分な起業案件数の獲得が困難である一方、起業の支援には多様な人材、資金、スキル、ノウハウの確保が必要であり、一大学でスタートアップ支援体制を維持するのは困難なため連合体で質の高い支援を実現する必要。
- PARKS 参画大学は物理的に離れているため、密なネットワークの構築が困難。
- 地理的特徴を生かし、台湾やシンガポールのエコシステムとの接続を実現する。
- 持続可能な運営モデルの確立

2. 評価結果

総合評価:A

3. 総合評価結果

アントレプレナーシップ教育について、令和 8 年度末までの受講人数目標を達成したことは高く評価できる。教育者向けプログラムの実施や、レベル差のある多くの大学の底上げに取り組んだ成果が現われていると考える。また、エコシステム形成への取組として、近隣国・地域との連携を進めるとともに、九州・沖縄地域のアカデミアと行政・経済界が一体となった連携の枠組みを構築している点は優れているといえる。

一方、起業支援人材については、参画大学において十分となるよう、1 大学あたり複数人の配置を検討するとともに、起業支援人材をより重要視し、CxO 人材との役割分担を明確化した上で、スキル・経験の蓄積や質の向上に努めてほしい。アントレプレナーシップという点では、起業家、社会課題を身近に感じられることも大切であり、まず関心を持ってもらう機会の提供等、入口の工夫も必要と考える。